

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495400723		
法人名	株式会社リビングプラットフォームケア		
事業所名	ライブラリ八木山南	「マツ」ユニット	
所在地	宮城県仙台市太白区八木山南1丁目12-6		
自己評価作成日	令和 5年 2月 15日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 5年 3月 8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

比較的自立されている方が入居されているユニットになります。ご利用者の方が思い思いに過ごせるよう職員が創意工夫し支援を行っています。閑静な住宅地に立地している施設で、居室からは仙台市内や緑豊かな風景、山々を望むことができ、静かに過ごしたいが多くいらっしゃいます。各月の行事や日々のラジオ体操、軽体操、歌レクなど活動的に過ごされる反面散歩の機会など外出することも望まれている方が多く生活されています。敷地内の空間では、花を育てたりし、居室から眺めたり一緒に除草作業などお手伝いしていただきながら自然に近い環境で生活を送っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

八木山南団地北部の高台にあり、ホーム2階からは天気の良い日に蔵王連峰が望める。周辺の金剛沢治山の森から野鳥も飛んで来る自然豊かで閑静な中にある。「家庭的な雰囲気とその人らしく豊かに暮らせるように」のユニット理念の基、職員は傾聴する努力を惜まず、入居者本位の個性に合ったケアをしている。入居者や家族、職員は話しやすい関係にある。受診や終末期の支援体制がとれている事や柔軟な対応で家族からの信頼も厚い。他事業所の取り組みを参考にしたり、地域包括支援センター主催の連絡会議等に参加することで目標を達成した。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 ライブラリ八木山南 )「ユニット名 マツ 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念はユニットの見やすい所に掲示し、職員が日々確認することができている。職員が理念に沿えるよう日々介護支援を行っている	「私たちの理念」15項目を玄関に掲示している。ユニット理念の継続を職員と話し合っ て決めた。職員は自由に楽しみ乍ら行事等を企画し、入居者はのんびりと参加することでお互いに豊かに暮らしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響で施設行事に地域との交流機会の確保が困難であったが、散歩等でのあいさつ等実施している	入居者との散歩で地域の方と挨拶を交わしている。洗濯物が飛んでしまった時に教えて貰ったり、隣家の塀改装工事の時に敷地内を貸す等の交流がある。移動図書館を入居者が定期的に利用している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染対策予防の観点から機会を設けることができなかった。次年度は地域貢献につながる支援体制の構築を図りたい			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族との意見交換や活動状況について書面で報告行った	家族と職員に季節の行事やヒヤリハット状況の報告を6回している。地域包括職員などの参加はコロナ禍により無かった。家族から4カ月ぶりの面会が嬉しかった事やレクリエーション企画が喜ばしい事等の意見があった。	地域包括職員や民生委員、町内会長などへもホームの状況報告を書面で送るなど参加を促すようお願いしたい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管轄の地域包括支援センター、区役所保護課との連携、情報共有を行ない協力関係の構築を図っている	市から「終活セミナー」「成年後見人」等のZoom研修の案内があり、参加するようにしている。区の担当者に介護保険の更新の他、生活保護受給者についての報告やおむつ代等の請求を相談している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外開錠しており、入居者、ご家族、協力機関等の往来が可能な体制としている 身体拘束についての研修を年2回実施するとともに身体拘束しないケアについて委員会が中心となり活動を行っている	全体会議で事例をあげ、共有した予想外の行動に対応出来るように話し合っている。言葉遣いに気を付け、「身体拘束適正化のための指針」を振り返り、拘束は行わないケアに努めている。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待、身体拘束についての内部研修を実施し、虐待や不適切なケアが行われな いよう職員へ周知している	不適切なケアが底辺となって身体拘束や虐待に繋がる事を職員と話し合い、年2回の研修やアンケート調査を行っている。職員の精神的負担軽減の為、休暇を規定より1日多く取得出来るように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修資料を活用し、職員が学ぶ機会の確保を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には十分な時間を確保し説明すると共に不安や疑問点については都度解決するよう取り組んでいる		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	問い合わせ意見用紙の設置、面会時等意見を募集している職員についても職員用意見箱を設置し常に意見交換行える体制の構築を図っている	入居者の要望する物等を把握し、電話連絡や毎月の便り等で伝え、家族との橋渡しの支援をしている。コロナ禍で面会規制が続く中、一時解除した際に「元気な顔を見られて良かった」等の声が聞かれた。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	四半期毎に全職員と管理者にて面談を行い意見交換の場を設けている また、職員用の意見箱を事務所内に設置し、全職員が利用できる体制をとっている	備品の劣化に伴い、コードレス掃除機や電動モップ等の要望に応じた。「空き段ボールの置き場に困る」の声に物置を購入した。実務者研修や介護福祉士等の資格取得時の費用負担や昇給、資格手当等の支援制度がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	四半期毎に全職員に対し自己評価、管理者評価を実施、昇給などの機会に繋げている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内資格研修に職員が応募、参加できる機会を確保している。今年度においては初任者研修、実務者研修課程を修了している		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催のケア連絡会議に管理者が出席し、事業所管轄の意見交換を行っている	地域包括支援センター主催のケア連絡会議で、他の事業所からホーム近くのハイキングコースや公園の情報等を得た。週1回来る薬剤師からは服薬指導を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や問い合わせの段階で関係機関より意見を伺い本人が困っていることに重点を置いたサービス提供を行えるよう職員と情報共有を行なっている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や問い合わせの段階で関係機関より意見を伺い家族が困っていることに重点を置いたサービス提供を行えるよう職員と情報共有を行なっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要としているのかをご本人、ご家族との話しを十分に聴取しサービスの内容について職員と共に検討している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居後においては既入居者との関係性構築において職員とともに生活しやすい環境作りを行っている		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族においても入居後の不安や疑問などにおいて都度相談しやすい環境作りの構築を図っている		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでのご本人の生活状況を尊重し入居後においても生活しやすい環境作りの構築を図っている	コロナ禍で、オンライン開催の日曜礼拝への参加支援がある。入居者が子供の頃に泳いでいた川の写真を、居室の壁に貼り思い出している。図書館で借りた1冊の本が気に入り、全巻揃えられるよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット内の行事や日々のコミュニケーションにおいて入居者同士の関係性が良好に保つことができるよう職員間で意見交換し支援に繋げている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後においても、必要に応じて相談や支援を行い、延長した関係性が構築できるよう取り組みを行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	感染予防を行いながら、本人が生活に必要な事、また、医師が確認できない場合においては本人が好きなことに着目し職員全体で支援を行うよう取り組みを行っている	塗り絵の得意な入居者に下絵を提供している。始めはピンク色だったが、茄子の絵に紫や緑を使うようになった。図書館で借りた本の繰り返し読みたいところをファイルで保存する支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活のバックグラウンドを把握しご利用者一人ひとりの性格に沿った支援が行えるよう模索し職員全体で取り組みを行うよう実践している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月ユニット内にてカンファレンスを行い、ご利用者の日々の変化を職員にて共有を図る機会を設けている。必要時は医療や関係職種と連携し入居者の方が安心して生活できるよう取り組みを行っている		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員がご利用者に沿って感じた事、情報を共有することにより統一したケアが行えるよう取り組みを行っている	ユニット会議等で入居者の状況を職員で話し合い、ケアマネが作成する。大腿骨頸部骨折の方は、手引き歩行から車椅子に変更した。家族が下肢筋力低下を心配する入居者に、散歩やラジオ体操等を継続する計画にした。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの様子や結果など職員全体で把握する機会を確保している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方に応じた福祉用具の活用やご本人の状態に沿った対応を適宜行う体制を作り、介護の専門家として総合的なサービス提供を行える体制作りをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動図書館の利用や、市民センターの図書室を利用するなど、適宜地域の資源を活用する体制を図っている		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医(往診医)とご本人の状態を共有し必要時には専門医を紹介していただき、日々の健康状態の把握に努めるなど個別に沿った医療体制の構築を行っている	全入居者が訪問診療を利用し、紹介で専門医を受診している。家族の通院介助が難しい時はホームで対応している。歯科医は必要時の往診が多い。週1回の訪問看護師による健康管理で安心が得られている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	契約訪問看護ステーションと連携しご利用者の健康状態の把握、共有を行なっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要な場合にはそれまでの経緯をご家族に説明を行い、状況と一緒に共有し治療内容や退院までのおおよその日数などご本人が安心して治療を受けられるような総合的な支援を行っている		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医(往診医)とご本人の状態について日々共有し、重度化した場合や終末期などの対応については面談の機会を確保するなど関係機関との連携強化を図っている	「重度化対応に関する指針」が明文化され、入居時や段階に応じて医師から説明がある。職員は、思いを汲み取って対応する事を共有し、状況を冷静に捉えて支援し、家族の心情にも寄り添って看護師から褒められた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応や思いがけない事故を想定し連絡対応できるよう連絡ルートの体制を構築している。冷静に対応できるよう全体会議などでシミュレーションを行っている		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的避難経路の確認、災害発生時には冷静に避難誘導が行えるよう職員へ周知徹底を行っている	夜間火災時の訓練を2回実施している。消防署から火元から離れるよう指導があった。非常階段が無いことで、入居者の誘導や避難経路等に課題が残る。災害備蓄品は防寒用や水、食料等3日分がある。	火災や地震等の災害で入居者の生命を守る為、災害に合わせたマニュアルに沿って、全職員が周知できるような訓練の実施をお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	支援する上で必要な接遇マナーの研修やプライバシーを配慮したケアなどの研修を適宜実施し不適切なケアにならないよう見直しを図る機会を確保している	名前にさん付けである。「ちょっと待って」を言う事もあるが、「お待たせしました」等のフォローをしている。失敗時は、トイレ内で汚れ物が見えない、匂わない工夫をしておく等、自分がして欲しい事の支援を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	水分についても複数の種類を施設にて用意し選択できる体制を整えている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭的な雰囲気大切に一人ひとりの希望に沿うような支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	適宜着替えを促し、着のみ着たままにならないよう、認知機能低下予防への取り組みを行っている 季節に即した衣類を切ることができるよう衣替えなどを実施している		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じた食事の提供や、行事などで普段とは違う提供など実施している 簡単な調理など行えるよう一緒に行うなど支援している	宅配食材が届き職員が調理する。入居者は茶碗拭きや盛り付けで参加したり、米研ぎ担当の方もいる。苦手野菜をホットケーキに混ぜたら完食だった。縁日でのたこ焼きや焼き鳥等を楽しんだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	随時摂取量を記録し勤務職員が把握できるシステムを導入している 摂取量が少ない場合などは細目に提供し不足しないように補うなど体制を構築している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用いご本人の排泄パターンの把握習慣をできる限り排泄の自立に向けた支援が行えるよう対応を図っている	布パンツやリハパンの方が多く、排泄パターンやサインに応じてトイレに誘導している。夜間はトイレ誘導や見守り、安眠優先等の支援をしている。何故困っているのかを観察し、機能低下を食い止めるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘時の対応は本人の排泄パターンを把握し食事量、水分量、活動量など総合的に把握し、下剤の頓用を内服するなど個別に判断対応している		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	基本的に週2回、入浴支援を行っている本人の希望やタイミングなどを考慮し支援に取り組んでいる 皮膚状態の把握を行い気持ちよく清潔保持、気分転換が図れるよう支援している	温泉入浴剤や薔薇風呂等で楽しんでいる。希望の時間帯や回数に対応し、毎日朝風呂後のノンアルコールを飲む方や、浴槽を跨げない方のリフト浴も対応している。エアコンとオイルヒーターで浴室や脱衣室は暖かい。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を職員が把握し、居室の整理や寝具の選択など安心して気持ちよく休めるよう環境整備に取り組んでいる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助を行う際も誤薬、未服薬などの事故を未然に防ぐとともに、薬の変更があった場合は随時申し送りを行うなど内服薬の変化に即した対応を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活にメリハリを持ち、充実した生活が送れるよう個別ケア、集団ケアを実施し、入居後の楽しみや気分転換が行えるよう取り組みを行っている		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染対策の観点から外出する機会は減少している	周辺の散歩やプランター植物の世話、新緑や山並みを見ながらの日光浴等が楽しみになっている。今春は豆から育てた味噌造りを予定している。眼鏡の修理で家族と出掛け、外食や買物を楽しめた方がいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居契約上、ご本人がお金を持つことは困難だが、ご家族から金銭を預かり購入したり、必要な物についてはご家族に依頼するなど対応している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用に関しては特に制限がなく使用可能		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット内の壁や廊下など、季節に準じた飾りを装飾し楽しみながら居心地のよい空間となるよう取り組んでいる	新年の生け花や折り紙細工を玄関やホール、廊下に飾り、今は折り紙で桜を作っている。感染時を視野に動線を見直し柵の配置を変えた。入居者は新聞やテレビ、塗り絵、歌、脳トレ等思い思いの時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファを設置し食席以外でくつろぐことができる環境整備を行っている 居室以外でも自由に過ごせるよう配置している		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にはなじみの身の回り品を持ち込んでいただいたり本人が使い慣れたものを活用してもらうなど協力を頂いている	備え付けのベッドやエアコン、筆筒に加えて、椅子やテーブル、電気毛布、テレビ、カーテン等を持ち込み、自分らしい居室になっている。点つなぎや折り紙、読書等それぞれが楽しみながら過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人ができる所は見守りを行いできない部分を支援し、認知機能低下予防や自立した生活が送れるよう職員全員で取り組みを行っている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495400723
法人名	株式会社リビングプラットフォームケア
事業所名	ライブラリ八木山南 「ケヤキ」ユニット
所在地	宮城県仙台市太白区八木山南1丁目12-6
自己評価作成日	令和 5年 2月 15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	令和 5年 3月 8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

比較的高齢、介護度が高いご利用者の方が入居されているユニットです。しかしながら、皆さんお元気で塗り絵や手作業など積極的に参加されています。閑静な住宅地に立地し居室からは仙台の緑豊かな自然と街並みを望むことができ、日中は南側の日当たりよい環境にあります。日課のラジオ体操、軽体操も積極的に行い、筋力低下予防を図りながら生活を送られています。移動図書館、市民センター図書館を利用される方もおり、コロナ禍においても思い思いの生活を過ごされています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

八木山南団地北部の高台にあり、ホーム2階からは天気の良い日に蔵王連峰が望める。周辺の金剛沢治山の森から野鳥も飛んで来る自然豊かで閑静な中にある。「家庭的な雰囲気とその人らしく豊かに暮らせるように」のユニット理念の基、職員は傾聴する努力を惜まず、入居者本位の個性に合ったケアをしている。入居者や家族、職員は話しやすい関係にある。受診や終末期の支援体制がとれている事や柔軟な対応で家族からの信頼も厚い。他事業所の取り組みを参考にしたり、地域包括支援センター主催の連絡会議等に参加することで目標を達成した。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 ライブラリ八木山南 )「ユニット名 ケヤキ 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念はユニットの見やすい所に掲示し、職員が日々確認することができている。職員が理念に沿えるよう日々介護支援を行っている	「私たちの理念」15項目を玄関に掲示している。ユニット理念の継続を職員と話し合って決めた。職員は自由に楽しみ乍ら行事等を企画し、入居者はのんびりと参加することでお互いに豊かに暮らしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響で施設行事に地域との交流機会の確保が困難であったが、散歩等でのあいさつ等実施している	入居者との散歩で地域の方と挨拶を交わしている。洗濯物が飛んでしまった時に教えて貰ったり、隣家の塀改装工事の時に敷地内を貸す等の交流がある。移動図書館を入居者が定期的に利用している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染対策予防の観点から機会を設けることができなかった。次年度は地域貢献につながる支援体制の構築を図りたい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族との意見交換や活動状況について書面で報告行った	家族と職員に季節の行事やヒヤリハット状況の報告を6回している。地域包括職員などの参加はコロナ禍により無かった。家族から4か月ぶりの面会が嬉しかった事やレクリエーション企画が喜ばしい事等の意見があった。	地域包括職員や民生委員、町内会長などへもホームの状況報告を書面で送るなど参加を促すようお願いしたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管轄の地域包括支援センター、区役所保護課との連携、情報共有を行ない協力関係の構築を図っている	市から「終活セミナー」「成年後見人」等のZoom研修の案内があり、参加するようにしている。区の担当者に介護保険の更新の他、生活保護受給者についての報告やおむつ代等の請求を相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外開錠しており、入居者、ご家族、協力機関等の往来が可能な体制としている 身体拘束についての研修を年2回実施するとともに身体拘束しないケアについて委員会が中心となり活動を行っている	全体会議で事例をあげ、共有した予想外の行動に対応出来るように話し合っている。言葉遣いに気を付け、「身体拘束適正化のための指針」を振り返り、拘束は行わないケアに努めている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待、身体拘束についての内部研修を実施し、虐待や不適切なケアが行われないよう職員へ周知している	不適切なケアが底辺となって身体拘束や虐待に繋がる事を職員と話し合い、年2回の研修やアンケート調査を行っている。職員の精神的負担軽減の為、休暇を規定より1日多く取得出来るように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修資料を活用し、職員が学ぶ機会の確保を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には十分な時間を確保し説明すると共に不安や疑問点については都度解決するよう取り組んでいる		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	問い合わせ意見用紙の設置、面会時等意見を募集している職員についても職員用意見箱を設置し常に意見交換行える体制の構築を図っている	入居者の要望する物等を把握し、電話連絡や毎月の便り等で伝え、家族との橋渡しの支援をしている。コロナ禍で面会規制が続く中、一時解除した際に「元気な顔を見られて良かった」等の声が聞かれた。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	四半期毎に全職員と管理者にて面談を行い意見交換の場を設けている。また、職員用の意見箱を事務所内に設置し、全職員が利用できる体制をとっている	備品の劣化に伴い、コードレス掃除機や電動モップ等の要望に応じた。「空き段ボールの置き場に困る」の声に物置を購入した。実務者研修や介護福祉士等の資格取得時の費用負担や昇給、資格手当等の支援制度がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	四半期毎に全職員に対し自己評価、管理者評価を実施、昇給などの機会に繋げている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内資格研修に職員が応募、参加できる機会を確保している。今年度においては初任者研修、実務者研修課程を修了している		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催のケア連絡会議に管理者が出席し、事業所管轄の意見交換を行っている	地域包括支援センター主催のケア連絡会議で、他の事業所からホーム近くのハイキングコースや公園の情報等を得た。週1回来る薬剤師からは服薬指導を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や問い合わせの段階で関係機関より意見を伺い本人が困っていることに重点を置いたサービス提供を行えるよう職員と情報共有を行なっている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や問い合わせの段階で関係機関より意見を伺い家族が困っていることに重点を置いたサービス提供を行えるよう職員と情報共有を行なっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要としているのかをご本人、ご家族との話しを十分に聴取しサービスの内容について職員と共に検討している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居後においては既入居者との関係性構築において職員とともに生活しやすい環境作りを行っている		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族においても入居後の不安や疑問などにおいて都度相談しやすい環境作りの構築を図っている		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでのご本人の生活状況を尊重し入居後においても生活しやすい環境作りの構築を図っている	コロナ禍で、オンライン開催の日曜礼拝への参加支援がある。入居者が子供の頃に泳いでいた川の写真を、居室の壁に貼り思い出している。図書館で借りた1冊の本が気に入り、全巻揃えられるよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット内の行事や日々のコミュニケーションにおいて入居者同士の関係性が良好に保つことができるよう職員間で意見交換し支援に繋げている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後においても、必要に応じて相談や支援を行い、延長した関係性が構築できるよう取り組みを行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	感染予防を行いながら、本人が生活に必要な事、また、医師が確認できない場合においては本人が好きなことに着目し職員全体で支援を行うよう取り組みを行っている	塗り絵の得意な入居者に下絵を提供している。始めはピンク色だったが、茄子の絵に紫や緑を使うようになった。図書館で借りた本の繰り返し読みたいところをファイルで保存する支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活のバックグラウンドを把握しご利用者一人ひとりの性格に沿った支援が行えるよう模索し職員全体で取り組みを行うよう実践している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月ユニット内にてカンファレンスを行い、ご利用者の日々の変化を職員にて共有を図る機会を設けている。必要時は医療や関係職種と連携し入居者の方が安心して生活できるよう取り組みを行っている		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員がご利用者に沿って感じた事、情報を共有することにより統一したケアが行えるよう取り組みを行っている	ユニット会議等で入居者の状況を職員で話し合い、ケアマネが作成する。大腿骨頸部骨折の方は、手引き歩行から車椅子に変更した。家族が下肢筋力低下を心配する入居者に、散歩やラジオ体操等を継続する計画にした。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの様子や結果など職員全体で把握する機会を確保している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方に応じた福祉用具の活用やご本人の状態に沿った対応を適宜行う体制を作り、介護の専門家として総合的なサービス提供を行える体制作りをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動図書館の利用や、市民センターの図書室を利用するなど、適宜地域の資源を活用する体制を図っている		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医(往診医)とご本人の状態を共有し必要時には専門医を紹介していただき、日々の健康状態の把握に努めるなど個別に沿った医療体制の構築を行っている	全入居者が訪問診療を利用し、紹介で専門医を受診している。家族の通院介助が難しい時はホームで対応している。歯科医は必要時の往診が多い。週1回の訪問看護師による健康管理で安心が得られている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	契約訪問看護ステーションと連携しご利用者の健康状態の把握、共有を行なっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要な場合にはそれまでの経緯をご家族に説明を行い、状況と一緒に共有し治療内容や退院までのおおよその日数などご本人が安心して治療を受けられるような総合的な支援を行っている		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医(往診医)とご本人の状態について日々共有し、重度化した場合や終末期などの対応については面談の機会を確保するなど関係機関との連携強化を図っている	「重度化対応に関する指針」が明文化され、入居時や段階に応じて医師から説明がある。職員は、思いを汲み取って対応する事を共有し、状況を冷静に捉えて支援し、家族の心情にも寄り添って看護師から褒められた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応や思いがけない事故を想定し連絡対応できるよう連絡ルートの体制を構築している。冷静に対応できるよう全体会議などでシミュレーションを行っている		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的避難経路の確認、災害発生時には冷静に避難誘導が行えるよう職員へ周知徹底を行っている	夜間火災時の訓練を2回実施している。消防署から火元から離れるよう指導があった。非常階段が無いことで、入居者の誘導や避難経路等に課題が残る。災害備蓄品は防寒用や水、食料等3日分がある。	火災や地震等の災害で入居者の生命を守る為、災害に合わせたマニュアルに沿って、全職員が周知できるような訓練の実施をお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	支援する上で必要な接遇マナーの研修やプライバシーを配慮したケアなどの研修を適宜実施し不適切なケアにならないよう見直しを図る機会を確保している	名前にさん付けである。「ちょっと待って」を言う事もあるが、「お待たせしました」等のフォローをしている。失敗時は、トイレ内で汚れ物が見えない、匂わない工夫をしておく等、自分がして欲しい事の支援を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	水分についても複数の種類を施設にて用意し選択できる体制を整えている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭的な雰囲気大切に一人ひとりの希望に沿うような支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	適宜着替えを促し、着のみ着たままにならないよう、認知機能低下予防への取り組みを行っている 季節に即した衣類を切ることができるよう衣替えなどを実施している		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じた食事の提供や、行事などで普段とは違う提供など実施している 簡単な調理など行えるよう一緒に行うなど支援している	宅配食材が届き職員が調理する。入居者は茶碗拭きや盛り付けで参加したり、米研ぎ担当の方もいる。苦手野菜をホットケーキに混ぜたら完食だった。縁日でのたこ焼きや焼き鳥等を楽しんだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	随時摂取量を記録し勤務職員が把握できるシステムを導入している 摂取量が少ない場合などは細目に提供し不足しないように補うなど体制を構築している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを実施している		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用いご本人の排泄パターンの把握習慣をできる限り排泄の自立に向けた支援が行えるよう対応を図っている	布パンツやリハパンの方が多く、排泄パターンやサインに応じてトイレに誘導している。夜間はトイレ誘導や見守り、安眠優先等の支援をしている。何故困っているのかを観察し、機能低下を食い止めるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘時の対応は本人の排泄パターンを把握し食事量、水分量、活動量など総合的に把握し、下剤の頓用を内服するなど個別に判断対応している		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	基本的に週2回、入浴支援を行っている本人の希望やタイミングなどを考慮し支援に取り組んでいる 皮膚状態の把握を行い気持ちよく清潔保持、気分転換が図れるよう支援している	温泉入浴剤や薔薇風呂等で楽しんでいる。希望の時間帯や回数に対応し、毎日朝風呂後のノンアルコールを飲む方や、浴槽を跨がない方のリフト浴も対応している。エアコンとオイルヒーターで浴室や脱衣室は暖かい。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を職員が把握し、居室の整理や寝具の選択など安心して気持ちよく休めるよう環境整備に取り組んでいる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助を行う際も誤薬、未服薬などの事故を未然に防ぐとともに、薬の変更があった場合は随時申し送りを行うなど内服薬の変化に即した対応を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活にメリハリを持ち、充実した生活が送れるよう個別ケア、集団ケアを実施し、入居後の楽しみや気分転換が行えるよう取り組みを行っている		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染対策の観点から外出する機会は減少している	周辺の散歩やプランター植物の世話、新緑や山並みを見ながらの日光浴等が楽しみになっている。今春は豆から育てた味噌造りを予定している。眼鏡の修理で家族と出掛け、外食や買物を楽しめた方がいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居契約上、ご本人がお金を持つことは困難だが、ご家族から金銭を預かり購入したり、必要な物についてはご家族に依頼するなど対応している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用に関しては特に制限がなく使用可能		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット内の壁や廊下など、季節に準じた飾りを装飾し楽しみながら居心地のよい空間となるよう取り組んでいる	新年の生け花や折り紙細工を玄関やホール、廊下に飾り、今は折り紙で桜を作っている。感染時を視野に動線を見直し棚の配置を変えた。入居者は新聞やテレビ、塗り絵、歌、脳トレ等思い思いの時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファを設置し食席以外でくつろぐことができる環境整備を行っている 居室以外でも自由に過ごせるよう配置している		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にはなじみの身の回り品を持ち込んでいただいたり本人が使い慣れたものを活用してもらうなど協力を頂いている	備え付けのベッドやエアコン、筆筒に加えて、椅子やテーブル、電気毛布、テレビ、カーテン等を持ち込み、自分らしい居室になっている。点つなぎや折り紙、読書等それぞれが楽しみながら過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人ができる所は見守りを行いできない部分を支援し、認知機能低下予防や自立した生活が送れるよう職員全員で取り組みを行っている		